

長畝ふるさと通信

【2012年7月号】

■ ミニトマトの養液土耕栽培をはじめました。

今年から育苗ハウスを利用してミニトマトの養液土耕栽培に取り組むことになりました。養液土耕栽培とはコンテナに専用の土を入れ、苗を定植し、あとはチューブを伝って必要な養分と水分を定期的に循環させる栽培方法です。組合ではハウス2棟に約1,100本のミニトマトの苗を定植しました。



収穫は8月中

旬から11月下旬までの約3ヶ月間です。定植から約1ヶ月が経過し、ようやく小さな実が付き始めています。この間、すくすくと伸びる苗を誘引したり、新芽を掻いたりしますが、ハウスの中は30度を超える暑さで、玉のような汗が噴き出てきます。今年の夏は新たな試練の夏になりそうです。

■ 穂肥散布は重労働



苗の後期栄養補給のために「穂肥」(肥料)を散布します。この時期、深緑色の苗が栄養不足になると色がさめてきます。これが栄養補給の合図。根元には幼穂(お米の赤ちゃん)が出来はじめており、収穫前の大切な作業のひとつです。背中に背負った動力散布機は約13kg、そこへ20kgの肥料を入れて100メートルの細いあぜ道を歩きながら田んぼに向かって散布していきます。多い日は1日に一人で20kgの肥料を30~40袋、約800kgを田んぼに播くのです。日中の気温はご存知の通り、半日でパンツまでびしょりです。仕事終わりのビールは当然倍増します。

畦にはカモの卵が・・・母カモはボクが近づくと卵の側を離れませんでした。

■ 大阪商談会に今年も参加しました

7月恒例の大阪お米マイスターの商談会に参加しました。しかし、おかげさまで24年産米もお米屋さんからの予約段階でほぼ完売状態です。もっぱらお客様のご挨拶回りに終始しました。「今年はどうですか?」「ぼちぼちでんな〜」…関西弁は奥が深くて難しいです。手作りのかっこいい看板を飾ってある米屋さんがありました。愛情を感じます!



■ 佐渡で生物の多様性を育む国際会議「アイセバ(ICEBA)2012」が開催。



7月16~18日の3日間、佐渡市を会場に生物の多様性を育む国際会議「アイセバ(ICEBA)2012」が開催されました。島外・国外(韓国や中国などのアジア圏)から約300人もの人々が来島し、400人超規模の会議が行われました。我が組合の無農薬栽培田んぼは「生きもの調査」の会場に選ばれ、韓国の生協グループなど約100人で大規模な生きもの調査を実施しました。昨年は韓国で

生きもの調査交流会が行われ、私もそこに参加していたので、1年ぶりの再会もあり、興味深い調査ができました。韓国も日本も田んぼの生きものはほぼ一緒です。後段の分科会・全体会議は国際会議らしく同時通訳のシステムが導入され、はじめて翻訳機を体感しました。同時通訳をされる方の頭の中はどんなになっているのでしょうかと素朴な疑問がわきました。全体として水田農業の重要性を再確認し、生物多様性農業をさらに発展させ、次世代につなげることを決議しました。詳しい内容に興味がある方は、佐渡市のホームページにアクセスしてご覧ください。



■ 苗は順調に生育しています!

田植えから早くも3ヶ月が経とうとしています。草丈も80cmほどに成長し、8月10日頃には出穂してきます。今年も美味しい新米がお届けできそうです。お楽しみに!

